

令和6年度(2024年度) 荒尾第四中学校 グランドデザイン

校訓：燦たり四中 強い意志 豊かな心 確かな学力



学校教育目標

磨き合う～自分を高めるための挑戦をする～



生徒会スローガン： 拓く ～ プライドとともに、新たな四中へ ～

「目指す教職員像」

- 生徒一人一人を大切にする教職員
- 常に学び続ける教職員
- 人間性豊かで指導力のある教職員
- 地域の願いに応える教職員

「目指す生徒像」

- 将来に向けて主体的に学ぶ生徒
- 自他を大切にする生徒
- 何事も最後までやり抜く生徒
- 地域とつながる生徒

「目指す学校像」

- 愛情と信頼で結ばれた学校
- 活気に満ち前進する学校
- 整備された潤いのある学校
- 地域とともにある学校

身につけさせたい資質・能力

【実行力】

見通しを持ち、自ら判断し、より良く行動できる生徒

【共感力】

自他の良さを認め、思いを交わし、つながり合う生徒

【自立力】

健康的な生活習慣を身に付け、自律できる生徒

授業・行事

生徒会活動

重点取組事項

学力向上

心づくり

体づくり

【誰一人取り残さない支援と生徒主体の魅力ある学校づくり】

1 「子供が主体」の授業実現

- 「熊本の学び推進プラン」「あらおベーシック」に基づいた単元デザインと全員活躍の手立てを用いた授業展開

2 学習規律の徹底

- 「四中校区学習名人」の周知と実践
- 立腰の姿勢

3 家庭学習の充実

- 授業・自学タイム・家庭学習という学習サイクルの確立による学習内容の定着

1 いじめ・不登校ゼロ(居心地の良い学校)

- 職員全体での組織的な取組
- ハートフルルームやステップルームとの連携を通し、一人ひとりにあった居場所づくり

2 思いを伝え合う生徒の育成

- ありがとうメッセージ集会の実施
- 朝の会、帰りの会でのスピーチ活動の実施

3 人権教育を根底に据えた学年・学級経営

- 小さなことから認め励まし、自己肯定感を高める。
- 一人ひとりが活躍できる場の設定

1 基本的な生活習慣の形成

- 早寝、早起き、自力登校など、基本的な生活習慣を身に付けさせる。

2 心身ともに健康的な生徒の育成

- 体育的行事や部活動等を通じて学校体育の充実を図る。

3 食育の推進と食習慣の形成

- マイ弁当チャレンジデーの実施
- 残菜0週間の実施

学校の支援体制

コミュニティ・スクール及び関係機関との連携

学校の課題

- 授業が難しくなったと感じる生徒が多く、わかる授業や個別指導の充実が求められる。

- 1分前着席や授業の準備など、学習に向かう姿勢が整っていない。授業では学習した内容を振り返る場面の設定や単元を通しての課題設定を改善する必要がある。

- 学習習慣は身につけてきているが、中身に個人差がある。また、自分に必要な課題に取り組めていない。

- 不登校傾向または別室登校の生徒が各学年複数名いる。

- 自分の思いを表現することが苦手な生徒もあり、思いを共感し合うことができておらず、人との繋がりが薄い場面が見られる。また、相手の立場に立った言動が取れない生徒もいる。

- 自分にいいところがあると思っている生徒の肯定率が半数に届いていない学年も見られ、分からないと答えている生徒の割合が高い傾向にある。

- メディア使用時間が長く、生活リズムが崩れている生徒がいる。

- 体育的行事の盛り上がり、団結力が学年によって大きな差がある。

- 朝食の欠食率は低下しているが、食生活の乱れや偏食は多く、食生活への関心は依然として低いままである。

人権尊重の精神に立った学校づくり